



和室から広間、キッチンを望む。大きな吹き抜けを介して、2階の部屋やホールなどと繋がっている。この家の中心は、まさにこの空間です！



南面の外壁は全て板張りとした。樹種の選定や板の張り方、また、深く軒を出す事によって、板の耐久性が向上する。



恵まれた敷地を生かしてシンプルで一文字形の建物を計画した。南からの採光も申し分なく、どの部屋にも明るさと風通しが行き渡る家になった。

土地に逆らわず、木組みに逆らわず。

この土地をどうやって活かしていくか。敷地全体を計画しながら間取りをあれこれと考えましたが、土地に逆らわず、また、木組みに逆らわず、素直な間取りを提案させて頂きました。素直な間取りとは言っても、単純な間取りということではなく、敷地の利点を活かした部屋の配置や開口部の設置、また、木材の大きさや長さに無理のないような木組みを心掛けていきました。

草床の家と題したKさんのお宅は、昨年9月に藤枝市岡部町に完成しました。住宅地全体がひな壇状に造成されている事もあり、敷地からの眺めもよく、開放感のある土地だと感じたことを覚えています。また、敷地は東南の角に位置し、東西に横長の形状をしており、とても恵まれた条件の敷地でした。

施主のKさんと大工の杉山さんのお二人は、仕事上でも付き合いのある友人同士です。共に、木や手仕事にこだわりが強く、今回の家造りでは、その思いが形となっていきました。



部屋を彩る子供たちの力作。

完成現場報告 藤枝市岡部町

『草床の家』

文/山崎健治
写真/古屋絵理

藤枝市岡部町の大工「杉山建築」さんからの相談で、今回の計画が始まりました。建て主であるKさんの願いと、造り手である大工の思いが共鳴し、地元産の木で作った板倉の家が完成しました。

キッチンより広間、和室を望む。広間は、二本の大黒柱とそれらにかかる二本の大梁の木組みが特徴的。重厚な木組みだが、大きな吹き抜けと大きな開口があるため、開放的な雰囲気も合わせ持っている。また、広間と和室の繋がり、それらと外部空間との繋がりによって、同一空間で家族がそれぞれの場所を楽しめる。

『草床の家』を建築した 杉山建築さんに聞く

Q&A



父：正美さん



「草床の家」棟梁
兄：健さん

杉山建築さんのご紹介。

親方であるお父さんの跡を兄弟二人で継ぐ若き大工さん。墨付けから建前まで得意とする、これからの大工界期待の星である(頑張れ!)。とっても元気で気さくなお二人です。

Q3.
コロポ独特の細部の納まりはどうか?

特に、建前の時の梁の納め方と電気配線は苦労しました。今回初めてで大変なことも多かったですが、とても勉強になったので、次からはスムーズに出来ると思います。

Q4.
今後、「板倉の家」とどう携わっていきたいですか?

次もまた、板倉の家で建てたいという気持ちになりました。今後も板倉の家の良さや木の良さを家を建てる方々に伝えていきたいと思います。

Q1.
なぜ「板倉の家」に興味を持ちましたか?

「牛乳屋さん」の完成見学会に伺った時に興味を持ち、一度は板倉構法で建ててみたいと思いました。木そのものの特性を生かして建てていく板倉の家のぬくもりをお客様に伝えていきたいと思い、やりたい気持ちになりました。

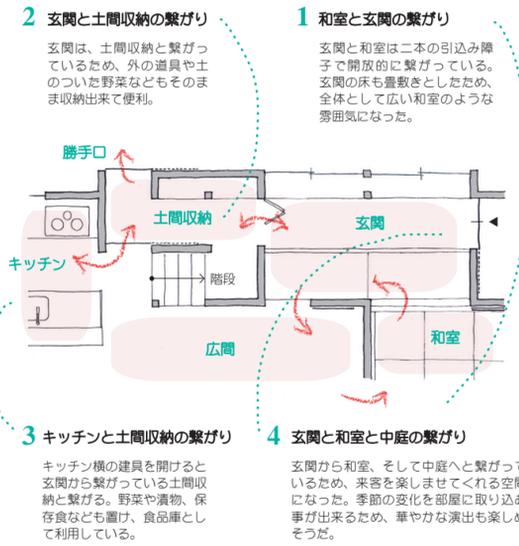
Q2.
刻みから完成まで携わってどうでしたか?

寒い中の墨付け、刻みでしたが楽しかったです。墨付けが好きですから! ほとんど化粧だったので、刻みから完成まで気を使いながらの作業は大変でした。でも、完成して感動しました!

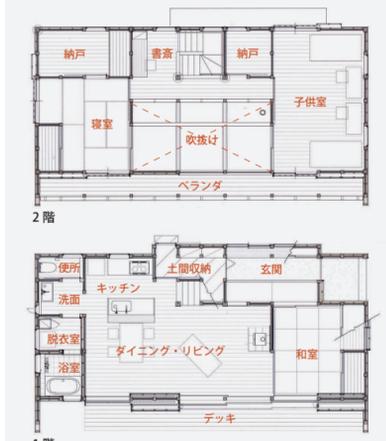


弟：拓也さん

(株) 杉山建築
藤枝市岡部町殿 470-10
TEL. 054-668-0452



4



1: 広間に設置された薪ストーブ。その形と色から、Kさんのこだわりを強く感じる。

2: 青森ヒバの壁が清々しい香りを漂わせている浴室。コロポの定番浴室。

3: 2階ベランダ上部に設けた連窓トップライト。深い軒を設けたため、室内の明るさを考慮して設置した。



つながる間取り。

Kさんの家の間取りは、玄関からはじまり、和室→広間→キッチンへと連続的につながって行きます。広間上部の吹き抜けを介しての上階との関係も、とても開放的なつながりです。

特徴的なのは、玄関と和室のつながりではないでしょうか。2枚の引き込み障子を開けて広々と使える工夫をし、合せて、玄関の床を畳敷きとすることで、2つの部屋を一体の空間として利用する事ができます。来客の多い時に重宝するのももちろんですが、玄関から和室越しに中庭が望め、驚きと華やかさのある空間になったのではないかと思います。

玄関は和室や広間のつながりの他、土間収納を通りながら、キッチンや勝手口ともつながっていきます。これは、裏のつながりとも言えますが、毎日の暮らしの中で、生活を無理なくスムーズに過ごす為の工夫です。玄関から土足で使える収納場所を設ける事で、家の中には持ち込めない外道具などを収納することが出来ます。また、キッチンや勝手口ともつながっているため、土の付いた野菜をそのまま収納したり、漬物やお味噌などの保存食も置き、食品庫としても利用できる場所になりました。通常では家の中に置きにくいこれらの物もキッチンの近くにあるので、使い勝手のよい場所になったと思います。

家事動線を考える時、キッチンと水廻りとの関係も忘れてはいけません。Kさんの家では、キッチンのすぐ近くに、浴室→脱衣室→洗面室→トイレを一直線に配置し、使いやすさと合せて、通風を確保できる配置としました。特に浴室を南側に配置することで、明るく、ジメジメ感のない浴室になり、とても気持ちの良い場所になったと思います。

間取りを考える中で、それぞれのつながりはとても重要な意味を持ちます。単に部屋と部屋をつなげるのではなく、毎日楽しく過ごすためのつながりや、ストレスを感じさせないつながり、また、つながりを工夫して、通風や採光を得ることもできるのではないのでしょうか。住まいという限られたスペースの中で、毎日快適に過ごすためにいるんなつながりを考えて、新しい発見をしていきたいと思います。

仕様内容	
敷地面積	200.00㎡
延床面積	200.00㎡
構造	板倉構法 2階建て
家族構成	家族4人
設計者	山崎健治
施工	杉山建築
設備	キッチン、洗面、トイレ
内部仕上	壁：珪藻土、天井：珪藻土、床：杉板、床板：杉板、内装：珪藻土、タモ目・オリーブ、青森ヒバ板張り+サリモ、モジュール貼
外部仕上	屋根：ガルバリウム鋼板、長尺段葺き、外壁：ガルバリウム鋼板、角波継ぎ、杉赤身板、ドイッ下見板張り、アルミサッシ、ヒバ木製建具(ヘアガラ)